

ふくら通信 2026年冬号



新年あけましておめでとうございます



穏やかな新春をご家族で迎えられたこととお慶び申し上げます。

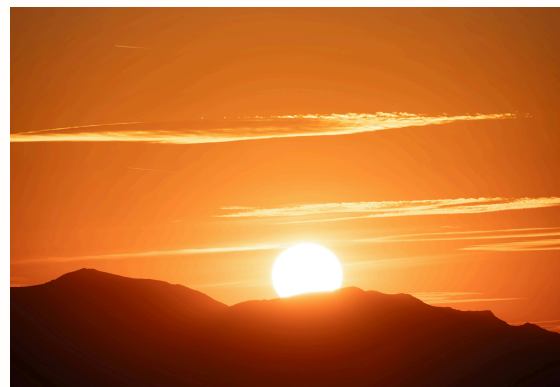
お正月休みはそれぞれの楽しみ方で過ごせたでしょうか。長いお休みで生活リズムが崩れてしまう事もあったかと思いますが、なるべく早く生活リズムを取り戻し、ひとりひとりが活動を存分に楽しめるように、私どももよりよい環境を整えて参ります。

本格的な冬を迎え、引き続き感染症などには警戒していかなくてはならない日々が続きます。ふくらは様々な利用者様が一緒に過ごす集合施設ですので、風邪の症状がみられましたら、無理をなさらないことをお願いいたします。

流行のインフルエンザも効果の高いお薬もありますので、早めの受診をおすすめします。

今後も、節分や雛祭りなど、日本古来から続く伝統行事が計画されています。ふくらでは子供の心に残るような楽しいイベントもたくさん

取り入れて参りますので楽しみにしててください。ご家族と共に力を合わせて素敵な1年となりますよう、どうぞよろしくお願い致します。



ふくらアドバンスに

俳優の野村将希さんが来てくださいました



水戸黄門の飛猿役でも有名な、俳優の野村将希さんが、社長のお友達とのご縁でふくらアドバンスに来てくださいました！

野村さんは現在、高齢者施設をまわり「野村体操」を通して元気と笑顔を届ける活動をされています。ふくらアドバンスの利用者様とスタッフは何日も前から、うちわを作ったり飾り付けをしたり、皆さんこの日をとても楽しみにされていました！

野村さんに会えると、昔から大ファンだった！と涙を浮かべる利用者様もいらっしゃいました。野村さんが歌う水戸黄門の歌に合わせてリズムにのって体を動かし、溢れ出す笑顔があふれるひとときとなりました。



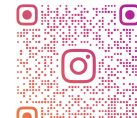
HP



YouTube



LINE絵文字



instagram

-社長コラム-

株式会社福蔵FUKURA 代表取締役
一般社団法人ふくら 代表理事
須田 祥子

【株式会社福蔵FUKURAの社名の由来】

母方の祖父は市内に住んでおり、優しく、強く、賢く、そしてとても尊敬できる人でした。昔の話になりますが、祖父が肺炎を患い入院したことがありました。当時は、入院すると必ず付き添いが必要な時代でした。しかし、どうしても付き添う人の都合がつかず、高校生だった私が付き添うことになったのです。人のお世話をすることが好きだった私は、大好きな祖父の付き添いをすることを苦には感じていませんでした。ただ一つ、尿瓶で尿を取ってあげなければならなかった時は、さすがに少し緊張しました。今思えば、孫にそんなことをしてもらう祖父の方こそ、きっと気恥ずかしかったのではないかと思います。その時、祖父はこう言いました。「ありがとう、ありがとう。おじいさんは世界で二番目に幸せだよ」「どうして二番なの？」と不思議そうな顔をした私に、祖父はすぐに続けました。「世界で一番幸せなのは、善いことをした祥子だよ。神様からたくさん褒美をいただくことになるからね」どんな時も、祖父は私に大切な生き方を教えてくれる人でした。祖父は、こんな言葉も残しています。「人は亡くなってあの世に還るとき、持って還れるものは心しかない。この世のものは何ひとつ持って帰れないんだよ。お金も、家も、土地も、どんなに立派な宝石もね。だから、天の蔵にたくさん貯金をしなさい。善いことを思い、善いことをするんだよ。天の蔵に徳を積むんだ」この言葉が、社名の由来となりました。

「心を込めて仕事をしていたら、いつの間にか天の蔵にたくさん貯金ができていた」そんな会社になりたいという願いを込めて、福祉の「福」と天の蔵の「蔵」を合わせ、「福蔵」と名付けました。ただ、漢字だけだと中華料理屋さんと間違えられてしまうため、後ろにFUKURAをつけました。「ふくらむ」というイメージもあり、未来への希望を感じられる響きが気に入っています。社名に込めた願いどおり、ふくらの職員たちは心を込めて子どもたちに接してくれています。

決して言葉が上手なわけではなく、どちらかといえば控えめで、自分たちの頑張りや愛情をひけらかすこともしない。口がうまいかと聞かれたら、口下手な人ばかりです。それでも、そんな不器用で実直、誠実な職員たちを、私は心から誇りに思っています。とても大変な仕事ではありますが、我が子のように子どもたちを心から可愛がってくれています。時々、背中から白い羽が生えているのではないかなと思うことさえあります。

この世で評価されないことがあったとしても、あの世に還ったとき、きっとたくさんたくさん褒美がもらえることでしょう。

【胆嚢の切除手術】

数年前から、時々起こる強い腹痛に悩まされていました。尿管結石か、膵炎か——さまざまな検査を重ねた結果、大きな胆石が原因だと分かりました。昨年には救急車のお世話になるほどの痛みもありましたが、「忙しい、忙しい」と言い訳をしながら、手術を先延ばしにしていました。ところが先日、研修先で胆石発作が起こり、ついに観念して手術を決断しました。今は、まさに明日の手術を控えた病室で、このコラムを書いています。時々、痛い思いをしたり病気になったりすることも、決して無駄ではないと思っています。なぜなら、ふくらを利用してくださる子どもたちの気持ちに、より深く寄り添えるからです。針を刺される時、検査を受ける時、ふくらの子どもたちのことを思い浮かべます。どうか、みんなが痛い思いをせず、毎日穏やかで幸せに過ごせますように……。そして、可愛い笑顔を思い出します。あなたたちの屈託のない笑顔が、何よりの励みです。みんなのために、社長も頑張るからね！

【追記】手術は無事成功し、2cm大の胆石が取れました。



水戸ホーリーホック観戦